

SSH通信

スーパーサイエンスハイスクール
岩手県立水沢高等学校
第18号 2018年1月9日 発行

生物サイエンスカフェ

平成29年11月30日(木)

1, 2年の希望生徒13名が参加し、本校生物実験室で今年度初めてのサイエンスカフェが行われました。NPO法人くらしとバイオプラザ21の「バイオカフェ」を活用し、本校の城守寛先生が企画したものです。くらしとバイオプラザ21からは、サイエンスコミュニケーターとして常務理事の佐々義子さん、主席研究員の笹川由紀さんが来校しお世話頂きました。

講師に岩手大学農学部附属寒冷フィールドサイエンス教育研究センター教授 由比進先生を迎えて、「野菜の種類、品種、種(しゅ)、種(たね)、と旬、の話」の題目でお話をして頂き、参加した生徒たちもリラックスした雰囲気の中で楽しく時間を過ごすことができました。



講師をして下さった岩手大学教授 由比進先生

由比先生は農水省野菜試験場、東北農業研究センター、岩手大学農学部附属寒冷フィールドサイエンス教育研究センター滝沢農場と野菜などの品種改良に関わっており、ハクサイ、トマト、イチゴ、ホウレンソウなど様々な野菜に携わっています。簡単な自己紹介の後、知っている野菜を挙げさせたり、日本で手に入る野菜の種類数、3つの野菜の仲間はずれを選ばせ野菜の分類を考えさせるなど、様々なワークショップやクイズでサイエンスカフェが行われました。ダイコン・カブ問題は写真からダイコン・カブを予想するものでしたが、根菜の外見からは専門家もほとんど分からないそうで、種子の大きさや莢(さや)の中の種子

の配列(ダイコンは一行、カブは二行)などを見ないと分からないと種明かしされていました。

後半では、由比先生が関わってきたトマトを題材に品種改良の仕方や遺伝について学びました。また、「旬」というのは、半分は植物、半分は使う人間の都合で決められたもので、技術開発によって旬を創ることが行われていることを知りました。種子の入った袋と野菜カードを組み合わせるワークショップでは、近い分類のものは似た種子になることも分かりました。



種子と野菜カードのワークショップ

最後の質疑応答の時間では、生徒からのさまざまな質問に対し、由比先生は真摯に答えて下さり、とても雰囲気のよいサイエンスカフェになりました。



質疑応答の様子